

菌床シイタケの種菌メーカーが、新品種の販売に力を入れている。生育の安定性などの作りやすさと、肉厚で肉質が硬

い、ボリュームが出やすいといった品質面の良さをアピールしている。各社の新品種を紹介する。

### 菌床シイタケ 各社の新品種

## 肉厚 規格外少なく

森産業



森産業の「森113号」

森産業(群馬県桐生市)は、四年の空調栽培と、秋から春にかけて発生させる秋冬ハウス栽培のどちらにも向く新品種「森113号」を販売している。初期の生育が安定し、正円形の肉厚なものが発生する。変形などの規格外品も少ない。菌床製造の適期は4月下旬から6月上旬。栽培期間は短く、6月の仕込みでも年内に出荷でき、施設の回転数を増やせるのがメリットだ。

2006年に発売した主力品種「森XR1号」の課題だった、初期に小さなものがたくさん発生する点を克服した。また、秋冬栽培の試験販売を始めた。来年

# 品質・作りやすさ追求

培の主力品種「もりの富富」は、1~3月に菌床製造し年内に収穫と栽培期間が長いのが課題だった。これらの代替品種として使える。問い合わせは同社、0277(22)1010。

## 数量・サイズ自在に

北研



北研の「北研788号」

北研(栃木県宇都宮市)は、春から本格的に売り出す。自然栽培の品種として打ち出しているが、将来は空調栽培向けの販売も目指す。空調での試験では、初回から形状の整ったMサイズ中心のものが得られているという。

## 栽培日数を短縮

千曲化成



千曲化成の「チクマッシュCS-2」

千曲化成(長野県千曲市)の「チクマッシュCS-2」は、同社の菌床シイタケ品種。昨年の秋に販売を始め、今年から販売を本格化する。形状・品質も特徴もある。

栽培向けとしての販売も目指す。空調での試験では、初回から形状の整ったMサイズ中心のものが得られているという。肉厚・大型で、しかもMサイズの大型のものが終盤まで安定して発生する。管理上の大型のものが採れる。

培養(除袋) 散水や浸水処理といった発芽刺激で1、2番のきのこが発生する。集中発生しても品質低下が少なく、奇形率も低く、安定した収量がとれる。

菌床シイタケ